

活躍する

高津クラブ

勢

一度ハンドボールの味を覚えると、それが何か麻薬でもあつたかのように、二度と忘れられぬものとなるだろう。誰かがこういつていたのを覚え

ている。多くの人が、その味、あのスポーツの、あのハンドボールの味を忘れてか、現在も

あつた。大学で、いやそれだけでなく、社会に出てからも、高津卒業後も続けてつて

は忘れられぬ、よきスポーツであるからこそ、うなづけるものがある。先年、関学において

津クラブ所属者の、大学現役選手としてのも、高津クラブの球界における活躍もめざましいものが

ある。去る二月（36年）第四回世界ハンドボール室内選手権大会出場の日、本選抜チームの壮行

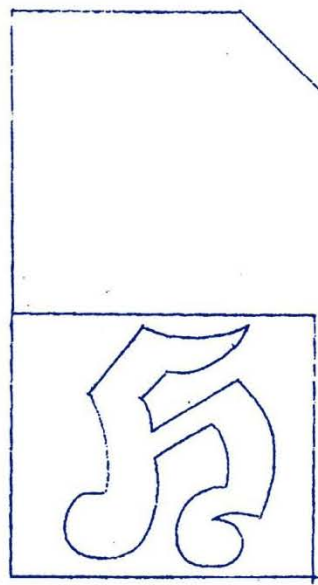
試合に、大坂選抜チームの一員として、我々がより中江、浅野両氏が出場された。善戦奮闘

で、日本選抜チームをもう一歩でくすという所まで追いこんだ。スコアが対比、これが示すよう

に、全くもつて好試合を展開した。又、東西学生選抜ハンドボール選手権でも西軍チームに、昨年へ

出場され、今年、中江、服部、浅野の三氏が出

場、昨年、対比、今年、対比、共に西軍が勝つた。あつた。関西リーグ（学生）戦においても、我高津





勢の活躍は目をみはるものがあり、中江氏を擁する同志社大学は、中江氏の攻守の活躍にのちに、秋期リーグ戦で優勝した。学生王座選手権では芝浦工業大学に敗つて惜敗した。関学では、覆本、津田両氏卒業後、バツクスに服部氏の活躍がある。京大では、バツクスの重鎮であり新主将となつた石崎氏、それに関西ハンドボール球界きつての強シニエーター、彼がいなければ京大の現状維持は難しいといわれる程の浅野氏、今年入った井口氏、大阪府立大学では、名キーパーの辻本氏、ハーフバツクセンターの高田氏、そして土井氏、市大では白井氏、小林氏、大前大には倉橋氏、林氏、又、卒業して後に新しく高津クラブに入つた人、高校で途中退部した人を含むには、阪大三國氏、神戸大の高田氏、大前大の川崎氏、安岡氏等各校で活躍しておられる。特に中江、浅野両氏は京大クラブにも属しておられ、全日本総合選手権室内選手権等、各種の大会で気を吐かれた。又、今年度の関西学生ハンドボール連盟において中江氏が委員長、服部氏が副委員長の職をなせとげられた。今年は辻本（味の素）、中江（朝日新聞社）、高田（不二電機）服部（五十嵐電機）等が卒業されるが、来年度も石崎、浅野、両氏等を中心とする高津勢は活躍するだろう。そのために、高津クラブも繁栄の道をたどるのである。

業されるが、来年度も石崎、浅野、両氏等を中心とする高津勢は活躍するだろう。そのために、高津クラブも繁栄の道をたどるのである。

1961.12.13

(T・H記)

